

## 第 1 部

---

# 精神保健福祉援助実習の 認定実習指導者養成研修プログラム

社団法人日本精神保健福祉士協会  
企画検討小委員会



---

## 序 章

---

### はじめにー本調査研究及びモデル事業の目的

本報告書は精神保健福祉援助実習に求められる実習指導者を養成するために、その研修プログラム（案）開発に取り組んだ経過を著している。最終的にプログラム（案）を提示するが、検討材料を収集するために以下の手順を踏んでいる。

まず、現行の精神保健福祉援助実習指導の実態を把握することを目的とした「精神保健福祉援助実習における実習指導者の指導内容に関する現況調査」（基礎調査2）【添付資料1】を行い、実習体験がその後の業務にどのような影響や反映を示しているかをみるために「精神保健福祉援助実習における実習指導の効果及び実効性に関する現況調査」（基礎調査3）【添付資料2】を実施した。いずれも郵送質問紙法による。これらの調査研究結果と過去の社団法人日本精神保健福祉士協会（以下「本協会」という）が実施した実習指導者養成研修プログラム内容とを比較検討し、モデル研修シラバス及びプログラムを開発した。これに基づき実習指導者モデル研修を実施し、そのモニタリング結果から修正を加え、「精神保健福祉士実習指導者養成研修プログラム」（案）を開発した。

### 1. 調査内容概要

「精神保健福祉援助実習における実習指導者の指導内容に関する現況調査」（基礎調査2）は、本協会が、実務経験・研修受講歴等について一定の水準を満たした者に授与する「研修認定精神保健福祉士」500名を調査対象とした。主として、①実習マネジメント、②実習プログラム、③実習スーパービジョンの3項目に関する実施状況と、実習指導展開上の課題、ならびに実習指導に関する意識を問うた。

このうち特に着目した点は「利用者との直接関与が不可欠であると認識しているか」「理論と実践の統合化を重視しているか」「人権感覚を醸成することを重視しているか」「スーパービジョンの重要性を認識しているか」「実習受け入れに際して養成校との連携が必要だと捉えているか」という点である。

また「精神保健福祉援助実習における実習指導の効果及び実効性に関する現況調査」（基礎調査3）については、本協会入会2年未満の精神保健福祉士を対象に実施した。ここでは、この数年以内に実習を経験した精神保健福祉士が、現在の業務遂行上、学生時代の実習経験がどのような効果をもたらしているかを中心に問うた。実習及び実習指導がどれほどの実効性を有しているかを可能な限り把握することを目的としている。項目は、調査対象者の「実習機関の種別」「実習プログラム内容」「実習指導者の経験年数」「フィードバックの内容」「実習前後での自身の主観的变化」「就職後の実務に与える影響」等についてである。

## 2. 調査結果とプログラム開発の概要

2つの調査からは、以下のような実態が明らかとなった。すなわち、指導者は、①実習生と利用者との直接関与が不可欠であると認識している、②現場実習における理論と実践の統合化を重視している、③実習において、精神保健福祉援助技術の獲得よりも価値・倫理に基づく実践を重視している、④実習生が自己覚知や自己内省することを重視している、⑤実習において、人権感覚を醸成することを重視している、⑥スーパービジョンの重要性を認識しているが、指導に自信が持てていない、⑦実習マネジメントの重要性の認識において格差が大きく、その機能が発揮されているとはいいいにくい、⑧実習受け入れに関して養成校との連携が必要だと捉えている、⑨多くは、実習プログラムを作成しているが、作成上の苦慮も抱えている、⑩実習生が「個別担当する」ことのあり方には、認識や方法に格差がある、⑪実習評価において「利用者理解」や、「実習生の意欲、取り組みの変容」を重視している、⑫実習スーパービジョンは、日誌を用いて一定時間確保している、⑬実習スーパービジョンにおける学生の理解度の重視には、指導者の認識に格差がある、⑭実習スーパービジョンでは「利用者理解」「利用者との関係形成」に焦点化している、などである。

これらの結果をもとに、「精神保健福祉士としての価値・知識・技術を踏まえ、精神保健福祉援助実習の現場指導者に必要な知識・技術を習得することにより、精神保健福祉士養成に国家資格者としての自覚と責任をもって臨むことのできる認定実習指導者を養成する」との研修目的を設定した。そして、①精神保健福祉援助実習指導概論、②実習スーパービジョン論、③現場実習マネジメント論、④実習指導方法論、⑤演習、から成るプログラムを作成した。なお受講内容の定着を意識し、講義終了ごとに演習を展開（計4回）するものとし、各講義の整合性の保持、講師による内容の偏りを最小限に留めるためにシラバスを作成している。

## 3. 講義内容の概要と到達目標

「精神保健福祉援助実習指導概論」は、講義時間を90分間とし、①精神保健福祉士養成教育の概要と実習教育の位置づけを理解する、②精神保健福祉士養成としての現場実習の意義を理解する、③精神保健福祉援助実習の構造を理解する、④現場と養成機関との契約と連携の意義を理解する、⑤現場実習の課題の背景を理解する、⑥精神保健福祉士の視点を再確認する、ことを到達目標に置いた。

「実習スーパービジョン論」は、2コマ構成（60分間と90分間）という形式をとり、①ソーシャルワークのスーパービジョン概論を理解する、②現場実習におけるスーパービジョンの意義と方法を理解する、③実習スーパービジョンの構造、機能を理解する、④実習スーパービジョンにおける指導者と教員の連携の意義と方法を理解する、⑤精神保健福祉士の価値を再確認し、その適切な伝達方法を理解する、⑥指導者の自己洞察力、自己批判力を醸成する、⑦実習記録活用法を理解する、として前半（60分間）は主としてスーパービジョン概念の再整理、後半（90分間）では実習に特化したスーパービジョン展開という構成をとった。

「現場実習マネジメント論」は、講義時間を90分間とし、①現場実習におけるマネジメントの意義・必要性を理解する、②現場実習受け入れ体制整備の意義と内容を理解する、③現場実習における施設機関内外の調整方法を学ぶ、④多様な現場における精神保健福祉士の業務を業務指針（本協会作成）と連動させて理解する、と達成目標を立てた。

「実習指導方法論」は、上記3講義を踏まえた各論として位置づけ、講義を2コマ構成（60分間と120分間）とした。長年にわたって実習指導に当たっている精神保健福祉士が受け持ち、①現場実習における指導プログラムについて理解する、②現場実習における指導方針に基づく実習プログラムの意義を理解する、③機関の特性、実習生の目的や課題とプログラム立案の関連を理解する、④精神保健福祉士倫理綱領に基づき、人権擁護の視点を醸成できるプログラム策定方法を考察する、という達成目標を掲げた。

「演習」は、各講義を基礎としながら参加者自らの実習指導経験を踏まえつつ、①集団討議を活用し実習指導に対する意義、知識ならびに技術の理解を促進する、②精神保健福祉士養成において現場で伝達すべき専門性を、指導者の価値観を踏まえながら討議の中で明確化する、③集団力動を通し、人と人との関係と、そこにおける自己の位置づけやあり方を意識化し、自らのソーシャルワーカーとしての専門的成長を図ることを目標とした。

#### 4. 「認定実習指導者養成モデル研修」実施状況

以上の経過により作成された実習指導者養成モデル研修のプログラムと講師共通シラバスを基に、2010年2月20日（土）、21日（日）の2日間、東日本会場（東京：文京学院大学）、西日本会場（神戸：神戸女子大学）の2会場において標記研修を同時開催した。あらかじめ本協会ホームページと紙媒体による応募用紙を構成員に配布して募集したところ、東日本会場で44名（修了者40名）、西日本会場で50名（修了者数同じ）が受講した。

モデル研修では研修の効果をはかるために参加者全員に講義ごとのアンケート、受講前後の実習指導に対する意識変化に関するアンケートの2種類を実施した。あわせて、受講者数名で構成するグループインタビュー調査も実施した。詳しくは本文で触れることとするが、受講者にとって非常に満足度の高い研修会とすることができた。一方、2会場での評価に有意差は認められなかったが、講師選定から開催までの期間が短く、講師個人の考え方が直接反映される講義となった側面もあり、研修の一貫性という点において、やや脆弱であるという課題が浮上した。このことはアンケート中に、講義内容よりも講師個人への評価と読める記述が散見されたという分析からも明確となった。

受講前後アンケートでは、すべての項目で、受講者の実習指導に対する意識が高まったといえる変化が表されていた。しかし、プログラム構成に関しては、時間配分や受講者の主体性を生かす研修とするための工夫が求められていることが明確となった。グループインタビュー調査では、実習受け入れ側と教育機関との連携のあり方に関するプログラムの必要性の指摘が際立った。

#### 5. 「認定実習指導者養成研修プログラム」の開発

以上のモデル研修受講者の調査結果に基づいて、認定実習指導者養成モデル研修のプログラム内容に一部修正を加えること、さらに詳細なシラバスを作成し、事前に担当講師に配布する必要性、さらに講師要件の十分な検討が課題として明確となった。

そこで本事業プロジェクトチームでは、各講義内容と到達目標をより詳細に整理し、あわせて各講義のシラバスについてもより詳細なものを作成した。また講義の講師要件についても検討を加えた。修正プログラムは次ページのとおりである。

【認定実習指導者養成研修プログラム（案）】

講義①精神保健福祉援助実習指導概論（90分）  
演習①（60分）  
講義②実習スーパービジョン論（150分、内訳；概論60分、実習スーパービジョン90分）  
演習②（60分）  
講義③現場実習マネジメント論（90分）  
演習③（60分）  
講義④実習指導方法論総論（120分）  
演習④（60分）  
講義⑤実習指導方法論各論（90分）  
演習⑤演習総括（120分）

演習は必要に応じて設定課題を提示し、単に講義の再整理に充てるだけでなく、グループでその解決法を検討する（タスク・グループ）方式を導入し、具体的な受け入れ体制整備のための実践的な内容も含むものとした。

さらに、講師の価値観等の違いによる差をより少なくするため、本協会の実施してきた「実習指導者養成研修」ならびにその前身である「日本精神医学ソーシャル・ワーカー協会」の時代から継承してきた内容を織り込んだ詳細なシラバスを作成した。特に、精神保健福祉士として不可欠な視点を重要視し、実習指導が単に技術指導に終始することなく、精神保健福祉士の価値及び倫理、さらには利用者との関係構築の過程を実践現場で学ぶという目的を強調した。また今日、十分に周知あるいは実践が定着しているとは言い難いスーパービジョンの方法についても詳細な解説を行う内容とした。